

隨泉寺寺報

平成16年(2004年) 10月号 第410号

082-892-0217 <http://ww41.tiki.ne.jp/~tetunari4/>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

秋季永代経法要

講師 西林寺住職 小林 義教師

講題 「生き抜く力」

我もいつぞ あらましかばと 見し人を
偲ぶとすれば いとど添ひゆく (新古今) 慈円(じえん)
【通釈】私もいつからこうなってしまったのか。「元気でいてくれたら」
と思っていた人が亡くなって、思い出を偲ぼうとすれば、そんな
人ばかりが ますます増えてゆくようになったのは。

秋の永代経の法座です。永代経というのは亡くなられた方を偲び、ご恩を
大切に伝えていくという尊いご縁です。今年もそれぞれの縁のある人には
大切な人が亡くなられました。本堂の左余間に特別永
代経の法名・ご芳名を記載したお軸があります。毎年
これを奉懸させていただく時に、なつかしく、有り難
く思い出します。

今回の御講師の先生は遠く北海道からご出講してい
ただきます。私が本山で布教の勉強していたときの
先輩です。楽しみにしています。誘い合わせて沢山
お参り下さい。

10月の法座予定

- 10月14日 昼席午後1時より……秋季永代経法要
- 10月14日 夜席午後7時半より……出張法座 長者原東 延氏宅
- 10月15日 朝席午前10時より……65歳以上の集い
- 10月15日 昼席午後1時より……秋季永代経法要
- 11月 2日 午後6時より……門信徒会本部役員会



災難に逢ふ時節には災難に逢ふがよく候。

18号台風の直撃で被害にあわれた方のお見舞い申し上げます。今年は異常
気象というのか、台風が6月に2回も本土上陸という珍しいことがあったり、夏
は毎日35度以上の猛暑で、9月になると毎週台風がやってきた。広島も18号台
風がまともにやってきて、屋根や、波板スレートを飛ばされたという被害を受け
られたお家も多いことです。

良寛が七十一歳の時、新潟の三条大地震があつて、死者は千数百人、家屋の倒
壊や焼失も大変な数であったといわれる。

良寛はあちこちの知り合いに地震見舞いを出したが、その一通に、よく引用され
る次の文句がある…「災難に逢ふ時節には災難に逢ふがよく候。死ぬる時節には
死ぬがよく候。これは災難の、のがるる妙法にて候。」

ただし、今の時代には、たとえいかなる天災であっても、
良寛の書いたような文句を口にすれば、大変なことになる。
おそらく良寛というひとの生死観がそれを書かしめ、受け
とった人がその生死観を共有していたればこそ、それが見
舞状たりえたのである。

それはひととは災難や辛いことに会おうと何かのせいにし
て、あの時こうだったら、この時 ああだったらと、他の
責任にして心の解決をしようとする。しかしすべてのものは原因があり、縁に触
れて結果を出す。どれだけ災難を逃れようとしても、縁があれば出会ってしま
う。死にたくないと願っても、死ぬるときには死ぬのである。まさしく仏教の縁起
の法の真髓を示しているのである。

いずれにしても、今の時代には、こういう虚辞ぬきの、分り易い言葉で、生死
についてものを言ってくれる人はあまりいない。



土曜学校(子供会)募集

平成11年から本堂工事の為休んでいた土曜学校を再開します。
休む前から通ってきてくれていた子供達から「子供会いつからするん？」と催促され
ていましたが、一度休んでしまうと再開をするのに、なかなか踏ん切りが
つきませんでした。しかし、夏休みに一泊研修会や子供会をして、楽しみ
にしてくれる子供達がいるうちに、もう一度頑張ってみようと、再開
することに決めました。毎月第四土曜日の午前9時から10時までの1時
間、お勤めとお話し、そのあとみんなで遊びます。午前中はお寺の本堂
や境内を開放します。友だちを誘って沢山参加してください。



御礼

特別懇志 貳拾萬円 川本 勝殿

祖母の思い出

とても気丈な祖母でした。96年間という長い人生を、どのように生きてきたのか、祖母の死に直面して考えさせられました。

七人の子供を生み、そのうち三人を亡くし、若くして未亡人となり、四人の子供を手一つで、育てていくという事は、戦後の混乱の中、並大抵のことではなかったと思います。

泣き言を言う暇なく、子供達も成長し、それぞれが家庭を持ち、安心したところへ、今度は孫を育てるといふ大役を任され、病気をする暇も無く、最後まで心身ともに丈夫な祖母でした。

思えば私のヘアスタイルは、いつも戦時中のオカッパ頭でした。夕食のおかずには、よくサツマイモの煮物が登場しました。おやつと言えば おはぎ で当時は「何でうちはこうなの？」と不満もいっぱいありました。でも時々戦時中の話をしてくれたり、昔の写真や日記を見せてくれたりと、明治、大正、昭和、平成と生きてきた人の〈生〉の声を聞くことができ、これは貴重な財産ではないかと思いました。

最後は苦しむ事もなく、安らかな顔をしていました。祖母がなくなって、さみしい悲しいという気持ちもあるけれど、96年という長い人生 本当にご苦労様でした。

そして生きているときには言えなかったけれど、今まで本当にありがとうございました、という気持ちをお浄土に届けたいです。

長者原東 白井 節子の孫 岩田淳子



涙そうそう

ふるいアルバムめぐり ありがとうってつぶやいた
いつもいつも胸の中 励ましてくれる人よ 晴れ渡る日も 雨の日も
浮かぶあの笑顔 思い出遠くあせても おもかげ探して よみがえる日は

涙そうそう

一番星に祈る それが私のクセになり 夕暮れに見上げる空 心いっぱいあなた探す 悲しみにも 喜びにも おもうあの笑顔 あなたの場所から私が見えたらきっといつか あえると信じ 生きてゆく

晴れ渡る日も 雨の日も 浮かぶあの笑顔

思い出遠くあせても

さみしくて 恋しくて 君への想い 涙そうそう

会いたくて 会いたくて 君への想い 涙そうそう

「涙そうそう」とは、沖縄の方言で「涙がとめどなく流れる、涙ポロポロ」の意味。

唄：夏川りみ 作詞：森山良子 ウチナーグチ訳詞：新城俊昭 作曲：BEG



人間の尊いねうちは点数では表せない

カレンダー 10月号 東井 義雄

人間の尊いねうちは点数では表せない

悟君は、二年生の途中に転入して来た子どもでしたが、前の学校でも、登校拒否で先生方を困らせていたということでした。

私の学校に来てからも、担任が、「われこそは、彼の登校拒否を解決してみせるぞと、いろいろ手をつくしてくれましたが、「元気を出せ」「もっと元気を出せ」と、いろいろ熱心に勤ましても、どうにもならないまま、六年生を迎えることになってしまいました。

私は、男子ではいちばん年の若い米田先生に彼の担当を依頼しました。気の弱い一面をもった先生だったからです。

米田先生は、彼に「もっと元気を出せ」とは言いませんでした。

「悟君、実は、ぼくも気の弱い男で、ほかの人が、人の気持ちなんか考えようとせず、自分の思い通りに何事もやってのけるのを見ると、うらやましくなってしまう。ぼくらは、自分のことよりも、先ず相手の気持ちを考えてしまう。が、考えてみると、これは、悪いことではなくて、人間としていちばん大切なことではないだろうか。悟君、お互いに、ぼくらのこの気の弱さ、もっと大切にしろうではないか」と、呼びかけてやってくれました。

米田先生の担任になつてから、悟君の登校拒否はピタリとやみました。

そればかりか、いきいきと登校するようになりました。それまでの担当たちの「元気を出せ」という善意にみちた励ましも、特別感度の鋭い悟君には「そんなことではダメだぞ」と聞こえ、自信を失わせる役割しか果たしていなかったのです。



人間をしあわせにする「学力」は、人間と人間の協力と鹿きあいの中で育ちます。「人間」を揺り動かし、日新めさせ、脱皮させ、ますます人間らしい「人間」を育て上げるような「学力」を目指さなければなりません。